

人としての年齢としても意味のある、まただからこそ多様な面で慎重に向き合うこと健康も含めて気をつけて生きることが必要な年です。だからこそお祝いをして、そのことを、肝に銘じるのだとも思います。

三つの幼稚園の歴史の新たな一歩としても意味のある飛躍の一年に、そしてこの歴史をさらに確固たるものにできるように、再度心を引き締めてしていきたいと感じています。今年も恒例の98歳になる名誉理事長に桜の花を見せながら心に誓っているところです。

さてどんな60周年、5周年にするか、それは・・・人生も含めて一瞬先のことも私たち自身にはわかりませんね。だからこそ、この一瞬一瞬を大切に生きていくことが大切だと思います。そしてその一瞬一瞬の積み重ねが意味ある歴史、をきづいていくことになるのでしょうか。そしてどんなに、その一瞬一瞬を大切に生きたとしてもどんな結果になるかは定かではありません。だから誰も不安になるのは当たり前です。当たり前だからこそ、その不安を受け止めて、すべてのことを受け止めるしかないのですね。

そして起こったことを後悔するより、たとえ、どんなに辛いこと、苦しいこと悲しい出来事でも、そのことがあったからこそ、よかったと、学ぶことが出来た、成長できたと、その過去に感謝することが出来たら、そして、どんな道を選ぼうと自分で、選択決断し、承認し、自分を信じ、本当の自立の道をに進み生き抜くことが出来たら、そして、その選んだ道がよかったと感謝しながら生きることが出来たら、きっといい人生になるのでしょうか。

最近、聞いた望月さんという方の言葉に【幸せに成功している人は3つの条件】という言葉がありました。その3つの条件とは・・・

(1)過去に感謝し、 (2)未来に夢を持ち、 (3)今をワクワク生きていること

『過去に感謝する』ための第一歩として心がけたいことは夜、寝る前に「感謝したいことを思い出す」ことです。その日にあった感謝したいこと、良いこと、新しく学んだこと、ほんのちょっとでも成長・進歩したこと・楽しかったこと・笑ったこと・感銘を受けたことなどを数え上げ、思いだしてみましょ。

『感謝する』という大げさに感じるようでしたら、満足したことをイメージしてみてもいいでしょう。

すると『感謝神経』が磨かれていきます。『感謝神経』とは自然に感謝の気持ちが湧き上がってくるセンスのことです。感謝したいことが反射的に思い浮かんで、その行動を即座にとってしまうことです。

感謝神経だけでなく、感動、感激の「三感」も同様です。



私たちの脳は、楽しいことは楽しいことで、ネットワークが生まれ、嫌なことは嫌なことで、ネットワークが生まれています。そのどちらのひとつ目のドミノを倒すかで、「楽しい連想ゲーム」も「悲しい連想ゲーム」でも始められます。

今晚、暖かいお布団に入った後に今日、楽しかったこと、嬉しかったこと、良かった点などを3つ考えてみましょう。安らかな眠りに就くことができ、しかも明日の目覚めがいいのです。

日々のちょっとした喜びやありがたいことを大切に、感謝して、暮らしていくことの中に幸せはあります。滅多に起こらない（1年に1回とか）ことだけを狙って生きていくと苦しくなりますね。（夢を挑戦することは大事ですが、夢が叶うことだけからしか喜びを感じられないとしたら苦しくなってしまうことでしょう。

今生きているだけで素晴らしい…当たり前なのに、その小さな幸せに感謝の目を向けられれば、ますます人生は豊かなものになっていくでしょうね。

もちろん人生には失敗もあります。失敗の連続とっていいかもしれません。そして失敗は成功の第一歩です。失敗から貴重な何かを学びます。そして失敗の、失敗の失敗の先に成功があります。「私の人生は失敗がなかった」という人はきっとその人の人生そのものが失敗なのでしょう。

なぜなら、失敗をしなかったということは新しい何かに挑戦しなかったということなのですから…失敗していいのです。どんどん挑戦して、失敗をして、そこで学んで人は成長します。勇気をもってどんどん挑戦していく人に、人生は微笑んでくれるのです。



試練がきたり、逆境に追い込まれたときは、「これ乗り越える過程で自分の能力が磨かれていく。これは絶好のチャンスだ」と考えてみましょう！大きな困難から小さな幸せ、ハッピー・シグナルを見つけ出す人は、「人生には本当に無駄はない。無意味なことはない」ということを実感しています。そして、ひとたびこのような価値観を持つと、すべての出来事がハッピー・シグナルだと気づくようになります。

そうすると、どんなことにもにも希望が持てるのです。

私が一番好きな言葉は『ありがとう、ごめんなさい』そして『大好き』です。どんな小さなことにも感謝し、今年一年も『ありがとう、ごめんなさい』そして『大好き』そんな言葉をかけあえる集団でありたいと思います。



10年位前に聞いた石村萬成堂の社長「石村善五」さんのお話を思い出しています石村善五さんは、日本にマシュマロディーを作り、広めた立役者です。これからは和菓子だけではなく洋菓子界にも乗り出そうと、元々あった「つるのこ」のマシュマロに、頂いたチョコレートを包んで送り返すという発想で始まったのがマシュマロディーの起こりです。又、洋菓子店として、自分の名前の「善」はフランス語で「ボン」「五」は「サンク」という事で、「ボン・サンク」の店を作り、洋菓子界で大成功を収めたことはご存知の方も多いことでしょう。「ボン・サンク」を更に発展させる為にマシュマロだけではなく「ホワイトディー」と名を改めた為に、クッキーやキャンディーも含めたお菓子業界全体に受け入れられ、またたく間に日本中に広がったことは、私の世代なら有名です。でも若い保護者の方なら、「ホワイトディー」が日本から、しかも福岡から始まったなどとは、今の今まで知らなかった方も多いいかもしれませんね。

石村社長の決断力、即戦力、アイデア力、実行力、そして自己責任を取る覚悟と思慮深さなどは、大変素晴らしく、博多の経済界を問わず、知られています。それだけではなく、石村社長の「社員教育」は見事だそうで、その為、福岡県内外の教育に関する委員を歴任されています。社員教育はそのまま、子育てに通じるものがあるからでしょう。以前にも紹介しましたが以下は石村社長のお話の抜粋です。

————『感謝する心が最も大切である。その上で、今、一番言いたいことは、愛情のあり方に問題があるということである。家庭内においては、過保護がまかり通っている。子どもが嫌がることはさせないで、何でも子どもの思い通りにさせる。子どもに自分で判断させないで親が何でも先まわりをしてあげる。ほしがるものを買ってあげる。子ども同士のけんかや人間関係に親が口を出す。自分で責任をとらせない。子どもを無視して親の感情で動く。自分の子どもの言葉だけ信用し、友人や周りを信用しない。小さな怪我さえもさせないように配慮しすぎている。親が子どもの世界を全て管理しようとする。それを親の愛情だと勘違いをしている。あなたのその子どもへの甘さが子どもをだめになっているということ声を大にして言いたい。』

学校の先生にも申し上げたい、学級崩壊をしているクラスの先生の8割が優しすぎる先生である。子ども達は席について、先生の話聞く必要がある。原理原則をしっかり示す父性、厳しさが今こそ必要である。人生には、苦労や困難があって当たり前である。世の中は、基本的に自分の思い通りには成らないことを教えておくのも教育である。親にも言いたい。怪我あるとすぐに何を使用禁止、つらいことがあるとすぐに何を止めさせろというが、その後の感動を味あわずして、成長も教育もない。もっと、子どもの成長を教師を信じて見守る気持ちがほしい。教師は、多少の苦情があっても、へこたれず、この感動を味あわせず教育は出来ない、責任は自分にあるのだから、是非続けるんだと、クラスの集団教育のプロは自分なんだと自信をもって言ってほしい。

今、教育で最も大切にされていることは『生きる力』である。では本当の生きる力とはなんだろうか。生きる力とは、逆境をはねのける力である。逆境が人生のばねになることを、大人は子どもに教えてあげる必要がある。逆境が人生を輝かせるのである。「麦ふみ」というのがあるが麦は踏むから育つのである。親は子どもには、ほしがるものを買ってやらない。そして、自分の人生を語って聞かせてあげることが大切である。

人間は、一度は「型」にはめる必要があると思う。こういってどうして「型」にはめる必要があるのかと聞く人がいる。「型」とは基本的な人間の生き方の姿勢である。狼にそだてられた「アマラとカマラ」は発見された後、どんなに愛情を持って育てても、人間になれなかったという記録がある。人間として育つ時に人間として育たないと人間にならないのである。だから、基本的な人間としての生き方が必要なのである。欲望を満たすことと抑制すること、皆が席を立ていけないときは席を立たない、感謝する「有難うございました」という型は人間として生きる基本である。特に最近ではしてもらって当たり前、ちょっとでも気に入らないと文句をいう、まず感謝するという姿勢が足りない、感謝するという型は人間として一番の生きる基本である。————

社員教育の中で甘えて、つらい・くるしい・悲しい体験をしなくて育った子どもがやがて成人してから、社会でどうなっていくかを何万人も見ても来られた経験から出た言葉でしょう。

やはり教育には、「共感し、理解をする、そして感謝し、共に感動する」という気持ちが基本ですが、一方で時として石村社長の言う厳しさが必要である、あえて自分がそうしていることを自覚した上で、（これが無意識では困るのですが、冷静に自覚をして）何でもはい、はいではなく、出来ないことはできない、ダメのことははっきりだめといえることが今こそ必要な時代なのかもしれません。

10年前の言葉が少しも色あせていないことに気づきます。時代の変遷と共に変化していくものと同時に、大切なものは、引き続き継続し、次世代に語り伝えていかなければならないと思います。そして、社会や地域がどんなに変化しようと創立以来変わることなく、本園の子ども達はとても素直で、輝くような笑顔です。この笑顔を絶やすことなく、60年の長きに渡り、脈々と受け継がれてきた建学の精神を守りながら、これからも、教職員心を一つにして、より一層研鑽を深め、新しい時代の社会変化に伴い、より充実した幼児教育を目指して日々努力していこうと思う60年そして5年のくぎりの春です。



この幼稚園で、子どもたちが小さな幸せを見つけていく方法

・・・それがゆりの樹幼稚園の教育方針であり、教育理念、そしてめざす人間像です。

『輝く太陽を目指しすくすく伸びる大樹のように、夢と希望に向かって愛と勇気を持って、この地球を自分の足で、自分のシナリオで歩いてほしい！』ゆりの樹幼稚園の願いです！！——その願い通り子ども達が学童期を経て、やがて成人した時に、本園の体験を通した『共感と個別性の自立の循環、思い出と感動の教育、知ることの喜びを知る体感教育』が芽吹き、どんな困難も乗り越えていく「真の生きる力」につながるように力を合わせていきましょう。

幼稚園でもっとも大切なことは、子ども達、保護者の方、職員の教育と成長です。このことがなくては、教育の現場とはいえません。子どもと共に育つことが大切です。子どもの成長に負けない大人でいたいものです。その為には、「ゆりの樹幼稚園」の教育方針をもう一度、心に刻んで頂くことが大切です。

だからこそ、ゆりの樹幼稚園の教育があります。新年度にあたり、今一度教育方針の確認をして頂きたいと思います。そして、しっかり理解していただき、子ども達のために手を取り合って、心を一つにして歩んでいきましょう。まずは小さなはじめの一步から・・・失敗とやり直しを恐れずに

★ゆりの樹幼稚園で目指す教育の三つの柱★

- 1に「真の自立への道」（個別性と共感）
- 2に「知ることの喜びを与えること」（自己成長の継続と問題解決能力）
- 3に「感動と思い出を作ること」（生命の尊重と危機管理能力）

★三つの教育の根幹★

1、**共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」

2、**響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」

3、**驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。

この三つの柱、三つの教育の実現のためには、「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」が大切にあると私は考えます。そこで、決断の教育の循環が大切になってくるのです。

★ゆりの樹幼稚園が考える教育の循環

「**自己選択→決断→承認→自信→他者分離→個別性→共感→自立**」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「**自分が大好きで、自分が信じられる**」教育です。

この教育は、子ども達が自ら選択、決定し、自己承認が出来る 日々の保育を通してその年齢に不可欠な子ども達の望ましい成長と発達を促す教育でもあります。子どもが自分で決めるということはとても大切なことで、いつ自分で決めるのかも含めて子どもに任せて待っていてあげるところに子どもの自主性が育ちます。自分で自分を律する（セルフコントロールできる）ことが出来れば、人は切れません。自分で決めるためには、「**小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気付いて、自分で決めるという体験が必要**」です。いつするかも含めて、自分で決めていいとなると、自分の衝動や欲求を抑制したり、先延ばしにしたり自分で出来るようになって行きます。この「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」の課題は、友達とのかかわりの中で育つことがもっとも大切です。それが三つの友達とのかかわりです。

★ゆりの樹幼稚園が考える三つの友達とのかかわり

- 1、「私は私」という自分の存在の確立
- 2、「私とあなた」という二者の関係、共に生きるということ
- 3、皆の中の自分という存在

『心の教育とは』ルールを教えるのではなく、なぜそうしないといけないかという気持ちを教える事「片付けることが大切」という事を教える事が教育ではなく、片付けると気持ちが良いという気持ちを教えるのが心の教育です。この気持ちが理解できない限りしつても子どもの心と体の中に定着することはありません。そうしたほうが心地よいことを子ども自身に感じてもらうことが心の教育です。このことを教えないとルールだけを守る人間になるのです。

そして、もっとも大切にしたいのは信念を持ってゆりの樹が考える「10E」を生きたること。

エコ・エンバイロメント

常に自分の心と体の健康に気をつけること。そのためには自分の周りの物的、人的環境を整えること。

愛のある言葉、夢、希望が持て、勇気が出る言葉をしっかりと食べる「心の朝ごはん」、そしていつも自分のことを理解してくれ、共感してくれる人を見つけておくこと、「心のランチ」ができる場所があることが大切です。

しっかり心の朝ごはんを食べたら、うんちを出すことも大切、もし、心のうんち（不満、不安な、怒りなどの感情）を出すことができなかったら、抑圧となって、それは変な形となって爆発するのです。だから、時、場所、相手、タイミング、言い方を考えて、上手に出すことが大事です。

エデュケーション・エモーション

エデュケーションは先に述べた、ゆりの樹の三つの教育、三つのかわり、三つの柱です。そして、その実現の為に、「ゆりの樹の10E」があります。心の朝ごはんと心のウンチを上手にすることが「ゆりの樹の10E」につながります。

なぜなら、先に述べたように、その行動がどのような、自分の心の奥底にある動機、感情に突き動かされてしているかが大切だからです。

だから、感情・エモーションに気づくことが一番大切です。自分の感情に気づかない限り、自分がどのような感情、動機に突き動かされて行動しているのか気づかない限り、自分の行動は納得できなくなるのです。

感情に気づかない限り、自分が、居心地がいいか、悪いかも自分で分からないので、自己選択、自己決定もできないのです。感情に気づけば、自己選択、自己決定ができ、自分を承認し、自信がつき、自分に自信があるから、自他分離し、他人も自分も「これでよし」と、共感し、そこに真の自立があることは、「ゆりの樹の教育方針」ですので、もう既に充分ご存じのことでしょう。これが自他肯定です。自他肯定できるからこそ、素直な言葉が出てきます。自分の心の声、感情に素直であれば、他人の目を気にして、フリをしなくて済みます。

エンパワーメント・エンターテイメント・エンジョイ・エクセレント

人間力・エンパワーメント（色々な人や本がどんなに良いことを教えてくれ、私達が進む道を示唆してくれても、自分がその道を進みたい《進むべきではなく進みたいという気持ち》が大切。人生はshouldからWillへの転換が大切。

他人がどう思うかを気にした「すべき」から「自分がどうしたい」のかという切り替えが大切。》それが人間力）が増えてきて、他者を理解することにもつながるし、どんな自分も受け入れる事が出来るようになるのです。結果として、心がリラックスし、どんなことも楽しんで・エンジョイして取り組める大人に育っていくことが出来るようになるのです。

そして次に、自分が楽しければ、人間はそれを伝えたくなる・エンターテイメントです。楽しんで、伝えて、伝わったら、嬉しくて、また伝えて、楽しんで、それが仲間づくりに発展するのです。自分の感情、どうしたいかに気づいて、見返りを求めずにいれば、最後まであきらめなくて、伝わるまで、伝え続けることもできるようになるのです。それが人生をエクセレントにするのです。

エクステンジ

自分の根本は変えられない部分もあります。どんなに努力をしても、結局、元のままだった、変えないと感じることもあるのです。そう感じるのも間違っていないのです。違う自分になることは苦しいのですね。

だからこそ、少しだけ行動を変えればいいのです。少しだけ行動を変えることが、人からは違って見える、人から成長したと見えるのです。だから、小さな行動ステップでいいのです。自分を客観的にみて、少しだけ行動を変えてみましょう。勇気をもって。そして、行動を変えることで、自分の中の奥底に、いつの間にか変化が起きているのです。それが成長です。

ゆりの樹幼稚園がめざす人間像

- 1、心と体が健やかな人—明るく、元気
人の良いところに焦点をあてることができる
- 2、謙虚な人—清く、優しい
人の成長を自分の喜びとし、手柄を自慢しない、相手をたて、「ごめんなさい」が言える
- 3、正直な人—自己肯定、素直
「わからないことはわからない、教えて、助けて」と言え、聞くことができる
- 4、感謝できる人—他者肯定、愛らしい
起こることをすべてを受け止めて、必要だった、だからよかったと感じ、「ありがとう」が言える
- 5、柔軟性がある人—かしこく、温かい
外(クレーム・アクシデント) 内(自分の問題・ストレス)の
どんな変事にも対応しようとする
- 6、勇気がある人—どっしりとして力強い
自分を信じて新しいことにチャレンジ、最後まで
あきらめないで一步を踏み出すことができる
- 7、自己責任がとれる人—凛として、おだやか
言い訳をせず、人のせいにならない
「だって・でも・どうせ」を言わないで、
今、何ができるかを考えようとする

このことの理解なくして、適時、適量の言葉かけは出来ません。このような親、教師、子どもの関係が築けたときその集団はきっと成長していくのでしょ

この実現のためにゆりの樹幼稚園の「教育理念や教育目標、10E、めざす人間像」があります。この実現のために、どうぞ、手を取り合っていきましょう。かわいい子ども達の為に。次世代のために。それは、とりもなおさず、人間として自己成長につながります。前を向いて歩くことが大切です。失敗したら、そこで学ばばいいのです。次にどうしたらよいか、考えればいいのです。怖いのは、失敗を恐れて一步を踏み出せないことです。迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。『情けは人の為ならず』、結果として、自分にすべてかえってきます目の前の事柄や手段や結果のみにふりまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけていきましょう。

吉塚ゆりの樹幼稚園大還暦(120周年)
玄海ゆりの樹幼稚園半還暦(30周年)に向けて、
今年一年も、子ども達、保護者の方
職員と共に歩き、驚き、響きあいながら、
共に成長したいと思います。



最後に昨年度、春の巻頭言で掲載した言葉をもう一度送ります。

愛

愛は心を受けると書きます。心を受けするためには高みにいるのではなく下に立っていなければ受けることができません。
下(under)に立つ(stand)続ければunderstand 理解するという意味になります。
だから愛とは人も自分も受け入れ、理解すること

人は夢を育て、夢は人を育てる
親、教師は子どもを育て、親、教師は子どもに育てられる